これまでの審議会意見等

※本資料は、第４次村上市総合計画の策定に係るこれまでの総合計画審議会での意見及び意見提出シートによる意見のうち、内容の確認に関するご質問などを除き、答申文の作成に関係するご意見をおおむね網羅する形で整理しております。

No.	意見区分	意見内容	意見趣旨（要約）	答申文（案）該当項目	反映の程度
1	第１回審議会	重要度が高く満足度が低い、いわゆる優先的に対応すべき項目がある一方で、防災、消防、道路など、重要度・満足度ともに高い分野について、なぜ評価が高いのか、どのような点が評価されているのかを分析することも必要ではないか。 課題や不足している点だけでなく、良い点をさらに伸ばしていく視点から総合計画を検討することも重要である。また、なぜ満足度・重要度が高いのかといった意見についても示していただきたい。	課題だけでなく、良い点・評価の高い点をさらに伸ばす	22～30行「2 村上市が持つ強みや可能性を生かし、伸ばすこと」	直接反映
2	第１回審議会	「課題の解決」という言葉を使う場合、マイナスを減らす、場合によってはゼロにするということが課題の解決である。日本社会においては、課題の解決というと、これをなくしていく方ばかり見ているが、プラスをさらに伸ばしていくということも課題の解決である。 前者を「問題点」というのであれば、後者は「可能性」であり、両方あるということである。総合計画を作るに際しては、問題点ばかりでなく、可能性をさらに伸ばす対策も盛り込む、そういう視点も必要である。	問題点だけでなく、可能性をさらに伸ばす視点	22～30行、特に27～30行	直接反映
3	第１回審議会	これまで、子育て関係をはじめとした様々な審議会に関わってきたが、例えば、保育園等の施設整備のあり方を検討する会議では、人口減少を前提として、施設をどのように縮小・再編していくかという議論になることが多かった。人口減少や地域の縮小を避けられない前提として議論を進める場面に、これまで数多く関わってきた。 そのような中で、市民委員等からは、「後ろ向きな計画ばかりで残念である」「将来に希望を持てる要素を盛り込んでほしい」といった意見が出されることが多かった。 今回の総合計画の審議においても、人口減少や地域の縮小を一定の前提として議論を進めるのか、あるいは、その中にどの程度希望や前向きな要素を盛り込んでいくのかが重要な課題になる。市民が希望を失うような計画ではなく、将来に希望を持てる内容を盛り込んでいくことが重要である。	人口減少を前提とするだけでなく、市民が将来に希望を持てる計画に	13～20行「1 人口減少の現実を踏まえながらも、希望ある未来をつくること」	直接反映
4	第１回審議会	人口減少が進む中、街を見渡すと空き家が増え、地域の活力が低下していると感じる場面がある。 そのような中でも、現在暮らしている地域に希望を持てることや、日々の生活の中で前向きな気持ちになれるような地域環境へ変化していくことが大切ではないか。誰もが安心して気持ちよく暮らせる地域であることが重要である。 一方で、現状としては、まだそのような実感を十分に持てていない部分もある。	人口減少地域でも希望を持ち、安心して暮らせる地域に	15～20行、48～58行	反映
5	第１回審議会	このデータからは、大きく二つの視点が見えてくるのではないか。一つは、市内または周辺地域に働く場があること、もう一つは、アンケート結果にも表れている「安心して暮らせること」である。たとえ仕事のために市外や近隣地域へ通う場合であっても、村上市で安心して暮らせるという実感を持てることは重要ではないか。 消防救急分野については、緊急時に対応してもらえるという安心感から一定の満足度がある一方で、日常生活においては、かかりつけ医や産科医療などに不安を感じている人もいるのではないか。 そのため、「安心して暮らせること」は、今後のまちづくりにおいて重要な要素になるのではないか。	村上市で安心して暮らせることが重要	48～58行「4 市域全体で安心して暮らし続けられるまちをつくること」	反映

No.	意見区分	意見内容	意見趣旨（要約）	答申文（案）該当項目	反映の程度
6	第１回審議会	人口を増加へ転じさせることは容易ではなく、村上市に限らず、人口減少の流れに抗い、人や子どもの数を増やしていくことは全国的にも難しい課題である。 そのような中で、今回特に印象に残ったのは、移住者からの「情報不足」に関する意見である。具体的には、空き家情報が不足していることや、移住後に必要となる情報が十分に得られないこと、情報発信が弱いことなどが挙げられていた。 こうした情報提供や情報発信の充実は、比較的取り組みやすい分野ではないか。実際に村上市で暮らしたいと考えて移住してきた方々に対し、必要な情報を適切に届けることで、安心感や定住意識につながる部分も大きいのではないか。 少なくとも、「情報が不足していることで困る」という状況を減らしていくことができれば、暮らしやすさや幸福感の向上にもつながるのではないか。	移住者等への情報提供・情報発信の充実	48～58行「4 市域全体で安心して暮らし続けられるまちをつくること」	一部反映
7	第１回審議会	環境、持続可能性、労働環境、安心、情報といった視点に加え、別の観点として、次世代へ引き継ぎたくなる文化や歴史を持っていることも重要ではないか。 そのような地域資源があることで、子どもや孫の世代へ村上を引き継いでいきたいという意識につながり、それが地域への希望にも結び付くのではないか。 たとえ人口減少が進み、いわゆる限界集落と呼ばれる地域であっても、そこに先人から受け継がれてきた歴史、伝統、文化、習俗が存在していれば、「自分の代で終わらせるのではなく、次の世代へつないでいきたい」という思いが生まれる可能性がある。 その担い手は、地域外から来た人や、これまで縁のなかった若者であるかもしれないが、そのような人たちが地域に関わることで、地域に新たな希望が生まれるのではないか。歴史、伝統、文化、習俗といったものも、地域に希望を持たせる重要な要素になり得る。	歴史・伝統・文化を次世代へつなぎ、地域の希望に	24～30行、37～39行	直接反映
8	意見提出シート	自然、食材、歴史など多くの財産を持っていることを、地元住民や移住者が誇りと思えることが大事である。 村上の魅力を再発見し、誰もが誇りを持ち、笑顔があふれるまちを目指してほしい。	自然、食材、歴史等の財産を誇りとし、魅力を再発見	22～30行	直接反映
9	意見提出シート	「暮らしたいまち、帰りたいまち」というイメージ。村上市で生まれた方が引き続き市内に住み続けたい、市外の方が村上市に住みたいと思える環境を整えるという意味での「暮らしたいまち」である。 進学や就職などで若者が市外へ転出することは仕方がない部分もあるため、市外へ転出した方が帰ってきたいと思えるような、豊かな自然環境、清潔感があり整った景観、就労環境、イベント等の魅力を創るという意味での「帰りたいまち」である。 また、全ての世代に活躍の場があり、活力があふれるようなまちをイメージする。若者の活力が高齢者へ、高齢者の活力が若者へ伝播することで、魅力的なまちになると考える。	暮らしたい、帰りたいと思える魅力あるまち	15～20行、24～30行、52～58行	趣旨を反映
10	意見提出シート	本市の最重要課題は人口減少であると考えている。本市が自治体として持続していくために、人口減少に取り組む本市の基本姿勢を総合計画に示してほしい。 また、村上には様々な魅力、資源があるものの、その事実があまり認知されていないと感じる。行政が村上の魅力、資源を再確認し、情報発信していくことで、市民の本市に対する肯定感を育むとともに、本市を訪れたい、住んでみたいと感じる人を増やす取組が必要である。 本市の最重要課題である人口減少に、分野横断、官民協働で取り組むとともに、移住増加を重要なねらいとして、本市の魅力発信に取り組むことが必要である。	人口減少に正面から取り組む。魅力・資源の再確認、発信、官民協働	13～20行、22～30行、45～47行	複数箇所に反映

No.	意見区分	意見内容	意見趣旨（要約）	答申文（案）該当項目	反映の程度
11	意見提出シート	子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らし続けられるまち、若者が住み続けたい、そして一度離れても帰ってきたくなるまちを目指してほしい。また、豊かな自然や伝統文化を守りながら新しい挑戦が生まれ、地域で支え合い、孤立する人がいない温かいまち、医療・福祉・教育が充実し、地域資源を生かして次世代につなげる持続可能なまちが望ましい。 村上市の将来像としては、持続可能性、人と自然の共生、つながり・支え合い、安心して暮らし続けられること、未来への継承といったキーワードが、これからの人口減少社会を見据えると重要ではないか。 人口減少や少子高齢化、担い手不足などの課題が深刻化する中、これからは、「守るべきものを守りながら、新しい価値を生み出すまち」へ進化することが求められる。 具体的には、「人口を増やす」ことだけを目標にするのではなく、人口が減少しても持続できる地域づくりへ転換すること、行政だけでなく、市民・企業・地域団体が連携し、みんなで支えるまちづくりを進めること、自然や伝統を守りながら、デジタル化や新しい働き方を取り入れ、変化に対応できる地域へ進化すること、「福祉」「教育」「産業」「観光」を個別に考えるのではなく、地域全体でつながるまちづくりを進めることが重要である。	安心、持続可能性、地域資源の継承、新たな挑戦、多主体連携、分野横断	15～20行、27～30行、37～47行、52～58行	広く反映
12	意見提出シート	人口減少のなかではつながりが重要になり、これが希望や笑顔につながっていくと考える。	人口減少の中では「つながり」が希望や笑顔につながる	13～20行、32～47行	直接反映
13	意見提出シート	これまでの総合計画の取組を引き継ぎつつ、未来（将来）を思い描けるまちへ進化し、「村上市は無くならない、持続可能的に未来へ続く」と希望が持てるまちを目指してほしい。子育て、健康、就労、地域事業、観光など、横断的な取組による相乗効果が必要であり、「私たちの村上市が本気で動いてくれている」と市民が実感できる仕組みづくりが重要である。 また、全ての分野で必要な取組を実施しつつ、その中でもウエイトを掛ける分野を選定することも必要ではないか。特にウエイトを掛けて取り組む分野については、市民の誰もが「今、村上市が特に力を入れているのは〇〇だ」と理解できるような情報発信・情報共有が必要である。 単に「ひと・もの・かね」を掛けるのではなく、様々な手法やアイデアで最大限の成果を上げることが理想である。	希望ある未来、横断的取組、重点化、情報共有	15～20行、45～47行、65～72行	趣旨を反映
14	第２回審議会	日本全体の問題として人口減少が進んでおり、地域ではさらに深刻な状況にある。人口減少は抗い難い大きな流れになっているとは思うが、国や行政がそれに対して諦めてしまえば、誰が人口減少の解決に向けて取り組んでいくのかということになる。 そのため、行政自らが「人口減少を前提に」と掲げてしまってよいのか、市民の目線から見ると疑問を感じる。	行政が人口減少を諦めた印象を与えるべきではない	13～20行、特に15～18行	直接反映
15	第２回審議会	様々な取組を行ったとしても、今後も人口減少が続くことが見込まれているというデータも示されており、人口減少そのものは避けられない部分があるのではないか。 そのような状況の中で、村上市の活力をどのように維持し、これからの地域をどうつくっていくのかを考えていくことが、現実的ではないか。	人口減少が続く中で地域の活力をどう維持するか	15～20行	直接反映
16	第２回審議会	人口減少が進む中でも、地域の活力や産業を維持・成長させていくための具体的なモデルがなければ、空論になってしまうのではないか。 例えば、国内で人口減少が進む中でも産業振興に成功している地域や、海外で同程度の人口規模でも経済発展を遂げている地域などの事例を参考にしながら、本市としてどのような取組を進めていくのか、具体的なモデルを示すことが必要である。それが行政の責任として求められるのではないか。	人口減少下でも地域の活力・産業を維持、成長させる具体的モデルが必要	15～20行「地域の活力を維持し、新たな価値や可能性を生み出す」	趣旨を反映 ※具体的モデルまでは答申に記載せず

No.	意見区分	意見内容	意見趣旨（要約）	答申文（案）該当項目	反映の程度
17	第２回審議会	「人口減少を前提としながら」という表現は、人口減少を受け入れてしまったような印象を与える部分がある。例えば、「人口減少の局面にあっても、地域を維持できる村上市」といった表現にすることで、人口減少を単に受け入れるのではなく、その中でも地域を維持していくという姿勢が伝わるのではないか。人口減少の中でも地域を持続させていくという意思が感じられる、もう少し前向きな表現にした方がよい。 また、他の自治体や海外において、人口減少の局面でも地域や産業を維持している事例について、計画書に掲載するかどうかは別としても、農業、商工業、福祉など各分野の参考となる事例を、市として把握しておく必要がある。	「人口減少を前提」ではなく、人口減少下でも地域を維持する前向きな表現	13～20行	直接反映
18	第２回審議会	行政としても、「本市はこういう姿を目指している」ということを市民に分かりやすく示せるような具体的なモデルを持っておく必要がある。今後、計画について問われた際に、「このような事例があり、本市にもこうした可能性がある」と具体的に示せることが重要である。そうした具体的なモデルや可能性を持った上で、戦略や計画を策定する必要がある。	本市の可能性を具体的に市民へ示す	19～20行「将来に向けた可能性を見いだし」及び22～30行	趣旨を反映
19	第２回審議会	農業については、フランスやイギリスでは都市部から農村部への人口移動が見られる事例もある。「農村だから人口減少は仕方がない」ということではなく、逆の動きもあり得ることが伝わるため、こうした事例を示すことは重要である。 また、国では「地方創生」から「地域未来戦略」へと考え方が移っており、「地域未来戦略」では17の重点分野が示され、国の支援制度とも関連していることから、本市の総合戦略にも、こうした国の方向性をある程度取り入れる必要があるのではないか。 例えば、農林水産分野では植物工場や陸上養殖などが位置付けられており、本市においても鮭の陸上養殖に関する動きがある。今後、国の支援制度を有効に活用していく観点からも、関連する取組については計画の中で一定程度強調するなど、記載の仕方に強弱をつけた方がよいのではないか。	他地域の事例、国の方向性、新たな産業等も踏まえ可能性を示す	19～20行、27～30行	間接的に反映　※個別施策は答申に盛り込まず
20	第２回審議会	今回の将来像では「つながり」と「挑戦」がキーワードとなっている。「つながり」については、人と人、地域と地域、世代や分野を超えて支え合い、連携するという意味が示されているが、そこに「過去とのつながり」という視点もあってよいのではないか。 村上は非常に歴史のある地域であり、中心市街地だけでなく、郊外のそれぞれの地域にも長い歴史がある。現在の村上があるのは、そうした地域の歴史や営みが脈々と受け継がれてきた結果であり、私たちはその大きな流れの中で今を生きている。 そうした意味で、人や地域などの横の「つながり」だけでなく、過去から現在、そして未来へと続く「つながり」という視点もあってよいのではないか。	人・地域だけでなく、過去から現在、未来への「つながり」	37～39行	直接反映
21	第２回審議会	「過去とのつながり」という点については同感である。村上は非常に多くの魅力を持った地域である一方、村上市民自身が、その魅力に十分気付いていない部分もあるのではないか。温泉や海、歴史、文化など、村上には豊かな地域資源がある。現在の村上が、これまでの長い歴史や文化の積み重ねの上に成り立っていることを認識し、自分たちの地域の価値をしっかりと認め、大切にするという視点があってもよいのではないか。 また、「つながり」については、市内だけのつながりにとどめるべきではない。人口減少が進む中では、村上市だけですべてを完結させるのではなく、周辺自治体をはじめ、市外の様々な主体と情報を共有し、連携して課題に取り組んでいくことが重要である。 「つながり」には、こうした市外・地域外とのつながりという視点も盛り込んでいくとよい。	歴史・文化等の地域価値、市外・周辺自治体とのつながり	24～30行、37～39行	直接反映
22	第２回審議会	将来像の「つながりと挑戦で、未来をつくるまち」という言葉は非常に心に響くものであり、よいキャッチフレーズだと思う。市民だけでなく、市外や同じような課題を抱える地域に対しても、強いメッセージとして伝わるのではないか。 「つながり」という言葉については、過去から現在、未来へと続く「時間軸でのつながり」、人と人との「人のつながり」、市内外を含めた「地域のつながり」など、いくつかの視点に分けて、その意味をもう少し広げて記載してもよいのではないか。そうすることで、将来像に込めた「つながり」の意味が、より具体的に伝わると思う。 また、地震や豪雨などの災害時には、地域の孤立が懸念される。情報が入らず、周囲とのつながりが失われることは大きな問題であり、市域が広く、多様な地域を有する村上市にとって、「つながり」は、市民の暮らしや安全を守る上でも非常に重要な意味を持つ言葉である。 「つながり」という言葉を様々な角度からもう少し掘り下げ、その思いを具体的に示すことで、市民だけでなく、市外の地域や県などに対しても、本市が目指すまちづくりの姿をより強く発信できるのではないか。	「つながり」を時間、人、市内外の地域など多面的に捉える	34～39行	直接反映

No.	意見区分	意見内容	意見趣旨（要約）	答申文（案）該当項目	反映の程度
23	第２回審議会	「あふれる笑顔」というこれまで大切にしてきた考え方が、その後の「礎に」という表現につながっているということであれば、「これまでの計画で大切にしてきた考え方を引き継ぐ」といった説明を加えると、より分かりやすくなるのではないか。 「第3次計画」と記載されている部分にも説明を加えることで、これまでの計画を礎として第4次計画へつなげていくというイメージが、読んだ人にも伝わりやすくなると思う。	第3次の「あふれる笑顔」を第4次へ継承する考えを明確に	76～78行「これまで大切にしてきた想いを受け継ぎながら」	趣旨を反映
24	第２回審議会	「笑顔」と、今回新たに掲げる「つながり・挑戦」が、どのような考え方や流れで結び付いているのかが、現状の記載では分かりにくい。 これまでの計画を単に上書きするものではないということであれば、「笑顔」から「つながり・挑戦」へ、どのように発展・進化してきたのかというロジックが必要である。そのつながりが明確になれば、単なる上書きではなく、これまでの考え方を継承し、発展させたものであることが伝わる。 計画書にどこまで記載するかは別としても、市として、そのロジックはしっかり整理しておいた方がよい。	第3次の「笑顔」から第4次の「つながり・挑戦」への発展・進化を明確に	76～82行	趣旨を反映
25	第２回審議会	現行の第3次総合計画においても、「創る」「育む」「広げる」の3つを基本理念として掲げている。今回、「進化」あるいは「深化」させるということであれば、枠組み自体は同じ中で、第3次総合計画から具体的に何が変わったのかが分かるようにした方がよいのではないか。 第3次総合計画の基本理念がよいものであるため、第4次総合計画でもそのまま引き継ぐということであれば、それでもよい。一方で、第3次と第4次では考え方がこのように変わった、あるいは深まったということを示すのであれば、「つながりや共創、新たな価値を生み出す視点を加え、これからの時代に合わせてその意味を深化させます」という説明だけでは、やや抽象的であり、具体的にどこが変わったのかが捉えにくい。 紙面や文字数の制約もあると思うが、第3次からどのように深化したのかが伝わるよう、表現を工夫していただきたい。	答申文では明示的な記載なし	答申文では明示的な記載なし	基本構想（案）側への反映が中心
26	第２回審議会	基本目標5の「広報広聴」では、「情報のアクセシビリティが確保され、行政と市民が双方向の対話を通じて共に歩むまちを目指します」としているが、この表現では、市内に向けた情報発信が中心となっているように感じる。 先ほどの「つながり」の議論にもあったように、広報には、村上市の魅力を市外にも広く発信し、地域外とのつながりを広げていく役割もある。 そうした視点も含めて、文章を検討していただきたい。	市外への魅力発信、地域外とのつながり	37～39行「市内だけでなく市外の人や地域ともつながる」及び65行「広く分かりやすく発信」	反映
27	第２回審議会	「集約」と「生活維持」は、一見すると相反する考え方のようにも思えるが、その両方を実現していくという市の意思が表れており、よいと思う。 一方、「まちの未来の地勢図」では、中心拠点、地域拠点、北部生活圏が示され、それらをつなぐ構成となっているが、三面川や高根川の上流部などにも集落がある。そうした地域に暮らす方々が、この構想から取り残されているように受け取られることはないのか。 図を見ると、3つの拠点や生活圏をつなぐことが中心となっているようにも見えるが、それ以外の地域の暮らしをどのように位置付けているのかという点も重要である。	拠点以外の地域が取り残されない土地利用	48～58行、特に52～54行	直接反映
28	第２回審議会	土地利用構想の文章にも、中心部への集約だけではなく、各地域の暮らしを維持し、必要なサービスへのアクセスを確保していくという考え方が伝わるよう、もう少し具体的な文言を加えるとよいと思う。	各地域の暮らしを維持し、必要なサービスへのアクセスを確保	52～58行	直接反映

No.	意見区分	意見内容	意見趣旨（要約）	答申文（案）該当項目	反映の程度
29	第２回審議会	土地利用構想の「集約」と「生活維持」について、この両立は当然必要なことだと思う。一方で、現在の表現では、機能を中心部に集約することは分かるものの、「生活維持」として何を維持していくのかが分かりにくく、地勢図を見ると道路や交通ネットワークだけを維持するようにも受け取れる。 個別の計画や施策まで見れば、周辺地域を決して見捨てるものではないことは分かると思うが、この土地利用構想だけを見た市民からすると、「また郡部が取り残されるのではないか」と感じる可能性がある。 中心部だけでなく、市内の各地域の暮らしをしっかり維持していくという考え方が伝わるよう、「生活維持」をどのように表現するか工夫し、誤解を招かないようにした方がよい。	中心部だけでなく、市内各地域の暮らしを維持	52～58行	直接反映
30	第２回審議会	「生活維持」をどのように示すかという点について、今回の構想は「土地利用」という考え方であるため、道路や交通ネットワークを中心とした表現になっているように感じる。 一方で、現在であれば、光ファイバーや5Gなどのデジタル基盤を活用することで、市内のどこに住んでいても必要なサービスを受け、日常生活を維持できるという考え方も重要である。「生活維持」を示すのであれば、道路などの物理的なネットワークだけでなく、情報通信基盤なども含めて表現してはどうか。 その上で、今回の基本構想の中に「土地利用構想」を位置付けているのは、どのような考え方によるものなのかという点についても整理が必要ではないか。	道路だけでなくデジタルも活用して生活を維持	56～58行「道路や公共交通、デジタルなど多様な手段」	直接反映
31	第２回審議会	土地利用という視点だけに限定するのではなく、光ファイバーや5Gなどのデジタル技術も活用しながら、市内のどこに住んでいても暮らしを維持できるという考え方を示すことが重要である。 中心市街地だけが生き残るということではなく、周辺地域も含めて市域全体の暮らしを支えていくというメッセージが伝わるよう、表現を検討していただきたい。	市内のどこに住んでいても暮らしを維持し、市域全体を支える	52～58行	直接反映
32	第２回審議会	「『つなぐ』が新たな価値を生み出す」という言葉は、むしろ前面に出した方がよいのではないか。「将来の土地利用の方向性」という表現よりも、この言葉を打ち出すことで、より強いメッセージになると思う。また、現在は文章を示した後に地勢図を掲載する構成となっているが、地勢図を先に見せる構成としてもよいのではないか。 「つなぐ」という点では、交通軸によって地域を結ぶことだけでなく、中心拠点や地域拠点それぞれの機能を充実させることも重要である。各拠点が充実し、それらがつながることによって、人と人とのつながりや新たな交流が生まれるという将来の姿を示すことができるのではないか。 さらに、「新たな価値を生み出す」という考え方については、土地利用という枠にとどまらず、通信網やデジタル技術の活用なども含めて捉えることで、より広がりのあるものになると思う。「つなぐ」ことによって新たな価値を生み出していくという考え方を、もう少し強いメッセージとして打ち出してもよいのではないか。	「つなぐ」が新たな価値を生む。交通・デジタル等を含めつながりを広く捉える	45～47行「つながりを新たな挑戦へ」、56～58行	直接反映
33	第２回審議会	例えば、「人口減少の中でも村上は持続していける」あるいは「人口減少に負けない」といった表現であれば、同じように人口減少という現実を踏まえながらも、より前向きな姿勢が伝わるのではないか。 具体的な表現については検討が必要であるが、市民に対して前向きなメッセージとなるよう、言葉を工夫していただきたい。	人口減少下でも持続する前向きなメッセージに	13～20行	直接反映
34	第２回審議会	基本目標5に「多様性が広がるまち」とあるが、男女共同参画や男女平等は、特定の政策分野だけに関わるものではなく、あらゆる分野に横断的に関わる非常に重要な視点である。 そう考えると、「将来に備える重点視点」と同様に、計画全体に横串を通す視点として位置付けることも考えられるのではないか。	男女共同参画や男女平等は、あらゆる分野に横断的に関わる非常に重要な視点	41～43	直接反映